

# 佐賀の地名について調べるには

## 「地名」とは

地名とひと口に言っても、それぞれに成り立ちや由来があります。同じ場所でも時代によって変遷し、昔と今では違う名前と呼ばれることもあります。

◆【地名：土地の名前】 ◆【地図：土地の場所】 ◆【時代】  
の3つのポイントから、地名を調査する方法をご紹介します。



### 本の調べ方

図書館のホームページや館内にある検索機から「蔵書検索システム(OPAC)」を使って、キーワードなどで本を調べることができます。

調べるためのキーワード



- ・旧国名 ・字名 ・市町村合併 ・地誌 ・地名研究 ・〇〇市町村史(誌)
- ・藩 ・大小区制 ・屋号 ・商号 ・宿場 ・しこ名 ・通称地名 …など

検索の件で分からないことなどがありましたら、  
お気軽にカウンターへお尋ねください。



### 所蔵図書で調べる

## ◆ 【 **地名** (土地の名前) から調査する方法 】 ◆

### ● 『角川日本地名大辞典 41 佐賀県』

「角川日本地名大辞典」編纂委員会／編 角川書店 1982

「総説」「地名編」「地誌編」「資料編」の4部門で構成。

地名編は50音順の配列で引きやすく、地名そのものの説明を豊富に収録。巻末の佐賀県参考図書目録に出典が整理されている。資料編に収録されている小字一覧は、すべての地名にルビがふられており、読みを調べるのに役立つ資料。

●『佐賀県の地名 日本歴史地名大系 42』 平凡社 1980

刊行当時の市町村ごとに大項目を分けて配列している。索引から地名の読みで引くことが可能。各地域と近隣諸地名との相互関係を重視した内容で、近代以前の土地の歴史を調査するのにおすすめ。

巻末には「文献解題」や「行政区画変遷・石高・戸ロー覧」、「佐賀県全図(輯製二十万分一図復刻版)」など、資料を豊富に収録。

●『内務省地理局編纂善本叢書 明治前期地誌資料 33』

内務省地理局編纂物刊行会／編 ゆまに書房 1986

明治前期全国村名小字調査書の第4巻(複製)。佐賀県は1874(明治7)年に調査を実施。皇国地誌編纂に伴う調査により、全国の小字の一覧が国に提出された。関東大震災で大半が焼失したが、佐賀県その他、数県は被害を免れている。

●『難読・異読地名辞典』 楠原 佑介／編 東京堂出版 1999

全国にある読めない、間違いやすい、読み方が何通りもある地名を、漢字画数順に配列した辞典。地方自治体名などの行政区画名や大字・町名などの地域区画名、地域社会で広く認知されている集落名を対象に収録されている。

◆ 【 **地図**(土地の場所)から調査する方法】 ◆

●『二千人が七百の村で聞き取った二万の地名、しこ名』

服部 英雄／著 花書院 2001

●『四千人が二千の村で聞き取った四万の地名、しこ名 2』

服部 英雄／著 花書院 2014

「しこ名」とは、明治初年まで小字に採用されず、通称地名として使われていた地名のこと。本書には「解説」「地名一覧」があり、地名から地図のどの場所で使われていたしこ名なのかを調べることができる。

①『二千人が七百の村で聞き取った二万の地名、しこ名』は主として佐賀平野、②『四千人が二千の村で聞き取った四万の地名、しこ名 2』は①の補遺編を収録。②には付録CD-Rとして、全巻通しての佐賀県地名Excelデータが収録されており、容易に検索ができる。

## ●『ゼンリン住宅地図』 ゼンリン社

建物の形状や住居者名などを記した詳細な地図。町名索引、主要目標物索引があり、現代の地名を調査するのに適している。佐賀県立図書館では佐賀県内のゼンリン住宅地図を収集しており、一番古いもので1957(昭和32)年に発行された佐賀市の住宅地図を所蔵している。

## ◆【時代から調査する方法】◆

### ●『大日本地名辞書 上巻 汎論索引』 吉田 東伍／著 富山房 1907

全国を都、国、郡に配列し、各郡内は『和名抄』の「郷」に分けて記述。歴史地理に重点を置き、地名の由来や、史跡、地形などをはじめ、その地に関係ある事柄で重要なものを網羅している日本歴史学の先駆的な書。国立国会図書館デジタルコレクションにてインターネット公開中。

### ●『太宰管内志 下巻』 伊藤 常足／編録 歴史図書社 1969

大宰府の管内、九州の九ヶ国、及び壱岐、対馬の地誌。筑前国の神官・伊藤常足が、郡ごとに地名伝承、地誌、寺社などについて諸史料を引用しながら詳述。例として、p.195 能美郷について「[和名抄]に藤津郡能美あり、能美は乃未とよむべし」とある。

国立国会図書館デジタルコレクションにて図書館・個人送信で公開中。

### ●『佐賀新聞に見る佐賀近代史年表 明治編 上巻・下巻』

佐賀近代史研究会／編 佐賀新聞社 1988、2011

1868(明治元)年～1912(明治45)年までの佐賀新聞記事を、政治・経済・社会など6分野の年表形式にまとめている。見開き2ページに1ヶ月分を掲載。下巻には「佐賀県管内全図」や「行政区画の変遷一覧(改訂)」が収録されている。索引に「地名」の項目があり、地名から明治時代の佐賀新聞記事の見出しを調べることができる。

### ●『全国地名駅名よみかた辞典』

日外アソシエーツ編集部／編 日外アソシエーツ 2016

日本全国の地名11万8845件、JR・私鉄・公営鉄道線の駅名8987件について、それぞれの読み仮名を明示した「よみかた辞典」。

地名の読み仮名の後ろに、所在地を示す都道府県名(駅名には路線名)を記載している。現行の地名読みの特化した辞典。



佐賀県立図書館ホームページで調べる

<https://www.tosyo-saga.jp>

佐賀県立図書館データベースは、地名を調査するのに便利なツールです。ぜひご活用ください。




### ●佐賀県立図書館データベース <https://www.sagalibdb.jp>



佐賀県立図書館が所蔵する資料などから制作した、さまざまなデータベースを公開しています。横断検索で「〇〇(地名)」などのキーワードで検索すると、複数のデータベースを一度にまとめて検索できます。



次の各種データベースにキーワードを入力して検索することもできます。関連する資料とその掲載ページが確認できます。

 <p><b>古文書・古記録・古典籍</b></p> <p>古文書・古記録・古典籍の画像を閲覧できます。</p> <p>検索する</p>	 <p><b>古地図・絵図</b> ①</p> <p>主に江戸～明治期の古地図・絵図の画像を閲覧できます。</p> <p>検索する</p>	 <p><b>近代地図</b> ②</p> <p>近代の佐賀県域の地図を閲覧できます。</p> <p>検索する</p>
---	--	--

### ①古地図・絵図データベース

江戸時代の世界図や日本図をはじめ、佐賀藩の高い測量技術を示す江戸時代の村絵図や、明治14年作製の郡村図などを、高精細画像で閲覧することができます。

## ②近代地図データベース

明治時代半ば以降、昭和40年代までに刊行された佐賀地域の地図を、高精細画像で閲覧することができます。

 <p><b>③</b> <b>米国陸軍撮影空中写真による地形図</b></p> <p>1940年代撮影の空中写真から作成された佐賀地域の5,000分の1地形図を閲覧できます。</p> <p>検索する</p>	 <p><b>④</b> <b>字図</b></p> <p>主に有明海沿岸部の佐賀市南部、神埼市南部、吉野ヶ里町の一部、白石町の一部、太良町の一部の字図を閲覧できます。</p> <p>検索する</p>	 <p><b>⑤</b> <b>地名(藩政期)</b></p> <p>江戸時代の「大小配分石高帳」(鍋331-24)等の資料から作成した地名の索引です。</p> <p>検索する</p>
<p><b>佐賀の民謡</b></p> <p>佐賀県内の民謡の音声データベースです。 (『佐賀県の民謡—佐賀県民謡緊急調査報告書—』(佐賀県教育委員会編集・発行/1988年) 取載)</p> <p>検索する</p>	<p><b>人名</b></p> <p>県内市町村史誌他、佐賀県に関する図書類360点の人名索引情報です。</p> <p>検索する</p>	

## ③米国陸軍撮影空中写真による地形図データベース

1940年代撮影の空中写真(航空写真)を元に、1950年代から60年代にかけて作成された5,000分の1地形図を、高精細画像で閲覧することができます。佐賀県立図書館が所蔵し画像を公開している地形図は、佐賀県域のうち主に台地や平野部を対象とする160枚です。図書資料では、縮小印刷した地形図集『米国陸軍撮影の空中写真による地形図』が閲覧可能です。

## ④字図データベース

主に有明海沿岸部の佐賀市南部、神埼市南部、吉野ヶ里町、白石町、太良町(いずれも一部)の字図約1,100点を、高精細画像で閲覧することができます。

## ⑤地名(藩政期)データベース

江戸時代の資料『大小配分石高帳写』(鍋331-24 鍋島家文庫)、『弘化二巳年惣着到』(鍋331-62 鍋島家文庫)、『[郷村一覽]』(鍋442-2 鍋島家文庫)、『寺社差出』(鍋700-8 鍋島家文庫)などから抽出した地名の索引です。地名の場所や、掲載されている資料名と掲載ページなどを調べることができます。

## ●レファレンス事例集

<https://www2.tosyo-saga.jp/kentosyo2/reference/search.do?lang=ja/>



これまでに佐賀県立図書館で実際に受けたレファレンス（調査相談）の事例集。「〇〇（地名）」「△△（地域名）」などのキーワードを入力し検索すると、過去の事例を見ることができます。



現在の地名の場合は、インターネットでの調査も有効です。図書と比べてタイムラグが少ないという利点があります。



インターネットで調べる

## ●国土地理院「地理院地図」 <http://maps.gsi.go.jp/>

検索窓に調べたい地名などを入力すると、その地名周辺の地図が閲覧できます。画面下部の矢印ボタンをクリックすると、表示されている地図中央付近の住所が表示されます。のボタンで「漢字表記」、のボタンで「よみ」に表示を切り替えることができます。

様々な年代の空中写真が公開されているので、同じ場所の異なる年代の写真を見比べて、街の移り変わりを知ることができます。

## ●日本郵便 <https://www.post.japanpost.jp/zipcode/index.html>

「郵便番号検索」で都道府県を選択し地名を漢字で入力すると、読み方がわかります。郵便番号から検索することもできます。

## ●Mapion（マピオン） <http://www.mapion.co.jp/map/admi41.html>

住所一覧から検索可能。地名の読みが記載されています。

## ●国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/ja/>

国立国会図書館で収集しているデジタル資料を閲覧できるサービス。全文検索可能なデジタル化資料を多数収録しています。

## ●レファレンス協同データベース <https://crd.ndl.go.jp/reference/>

国立国会図書館が全国の図書館などと協同で構築している、調べ物のためのデータベース。「<簡易検索>」に地名や地域名を入力し、情報の調べ方や回答プロセス、参考資料を参照することができます。